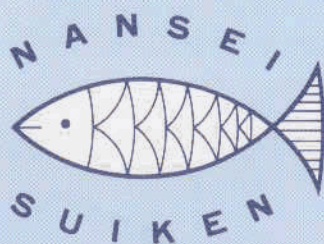


要覽

水産庁

南西海区水産研究所



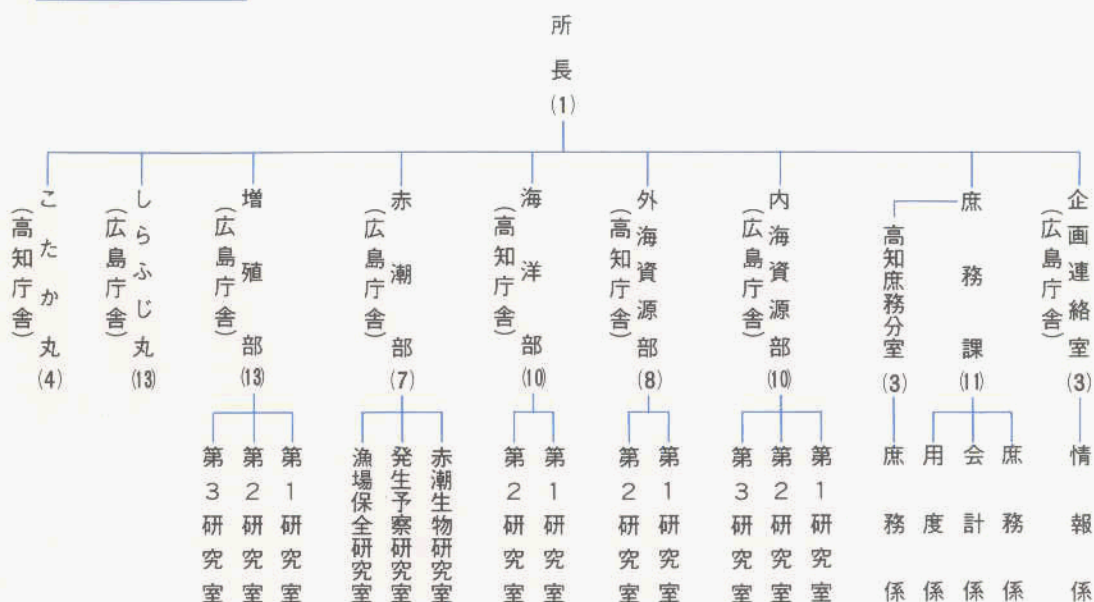
1986.12



沿革

- 昭和24年6月** 農林省設置法の一部改正により、水産試験場が廃止され、8つの海区水産研究所が設立された。瀬戸内海区を担当する内海区水産研究所が広島市に、太平洋南区を担当する南海区水産研究所が高知市に設置された。
- 昭和42年8月** 農林省設置法の一部改正により、内海区水産研究所と南海区水産研究所が廃止され、瀬戸内海及び太平洋南区を担当する水産研究機関として南西海区水産研究所が広島市に設置された。内海区水産研究所の全部門と南海区水産研究所の沿岸漁業資源担当部門とが統合され、4つの研究部に再組織された。内海資源部と増殖部は広島市に、外海資源部と海洋部は高知市にそれぞれの庁舎をおいた。
- 昭和43年4月** 試験研究分野の拡大と総合調整の必要の増大に伴い企画連絡室が新設された。
- 昭和45年6月** 農林省設置法の一部改正により、南西海区水産研究所広島庁舎は広島県佐伯郡大野町に移設された。
- 昭和47年5月** 沖縄県が南西海区に加えられた。
- 昭和54年4月** 赤潮部が広島庁舎に増設された。
- 昭和62年3月** 高知新庁舎完成予定。

組織



[注] ()の数字は昭和61年10月現在の実員、総数83名

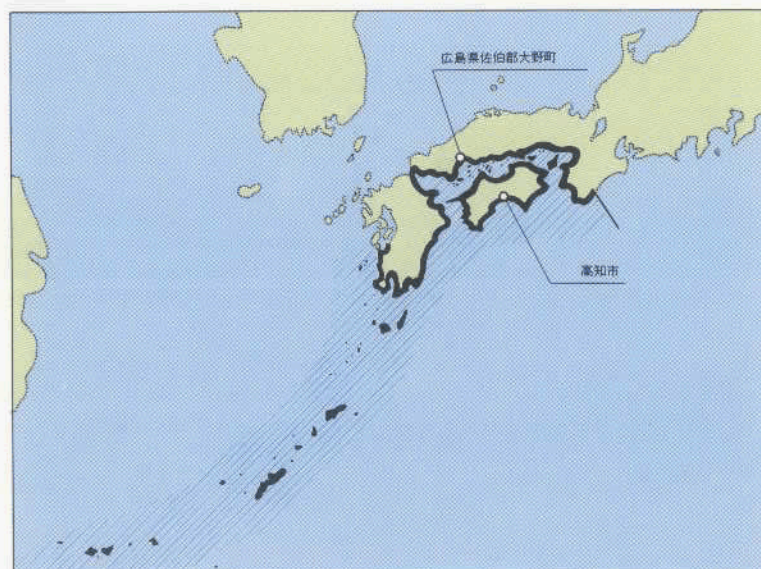
研究の概要

当研究所の担当水域は1府14県の沿岸・沖合に及ぶ。その範囲は広いのみでなくその中には瀬戸内海と黒潮流域という地勢でも、社会的条件でも著しい特色をもつ2つの海域を含んでいる。瀬戸内海は浅く、河川の流入も多く大きな生物生産を擁している上に、古くから発達した大消費地をひかえ、多様な漁業・養殖業が発達していて1km²当り35—40トンというわが国沿岸漁場の数倍に当る生産をあげている。近年に至って産業、都市の発展に伴う沿岸域の埋立て、水の汚染・富栄養化が漁業・養殖業を経営する上で大きな障害となりつつある。環境条件はきびしくなったが生産量はいぜん高い水準にある。

紀伊半島から四国・九州を経て南西諸島に至る水域では黒潮の消長が漁業・養殖業対象生物の分布量に著しい影響を与えてきた。ここでも市場の拡大に支えられて生産は増加を続けている。しかもこの海域は、わが国漁獲量のきをこえるイワシ、サバ等の主産卵場、カツオ、マグロの来遊路となっているし、わが国の中では黒潮の最上流域でもある。そこにおける海洋の変動、浮魚の産卵・来遊の成否はわが国太平洋沿岸の水産業の動向を予測するための鍵となっている。

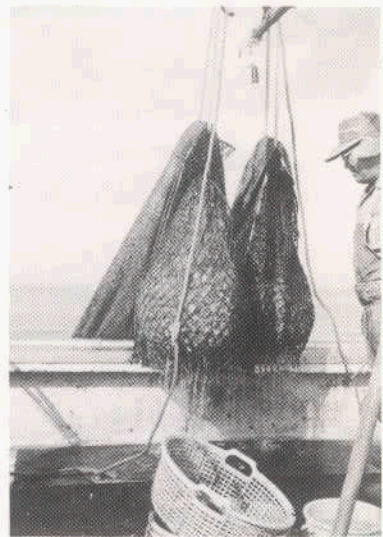
近年要請されている基本的な研究問題は、生産の基盤となる漁場、養殖場及び関連水域の環境変動の予測と管理、漁業対象資源の評価・予測・管理技術の開発・改善、有用種の増養殖・培養技術の開発・改善である。これを基盤として当海区の漁業・養殖業を維持発展させるための総合研究が行われている。その一方で当海区で進められている大規模な建設プロジェクト、工業化、都市化の下で漁業・養殖業の環境の維持を目指す研究が行われている。

担当海域

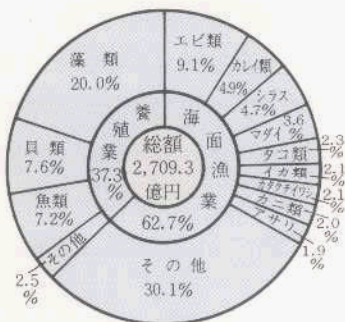


内海資源部

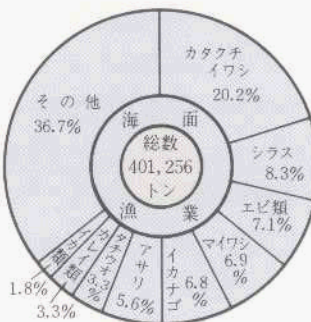
生産力が高いといわれる内海水域には多くの生物種が生息していて、販売される漁獲物の種類も約100種に及んでいる。このうちの重要な多くの種類、カタクチイワシ・サワラなどの浮魚類並びにマダイ・カレイ類・エビ類・ガザミなどの底生種の生態を明らかにする。これらの知見に基づいて、自然に行われている生物生産を有効に利用するための方策を追究する。その他、漁況予報を行い、栽培漁業の推進、漁業規制・漁業調整に関する提言、埋め立てなどの生物生産に与える影響調査を行っている。



瀬戸内海の小型機船底びき網(第3種)の網揚げ



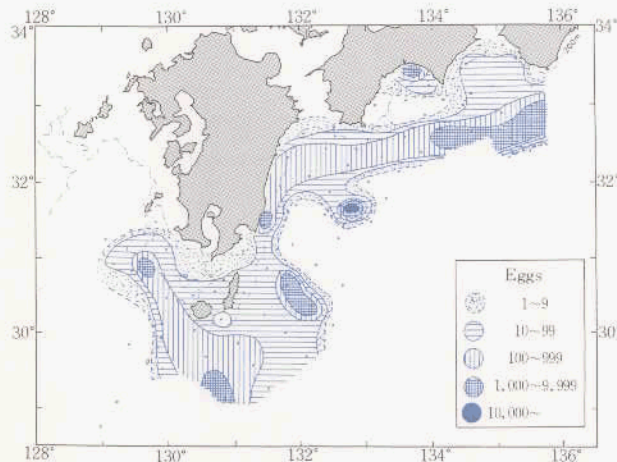
瀬戸内海の魚種別生産額比率
(昭和58年属人統計)



瀬戸内海の魚種別漁獲量比率
(昭和58年漁場別統計)

外海資源部

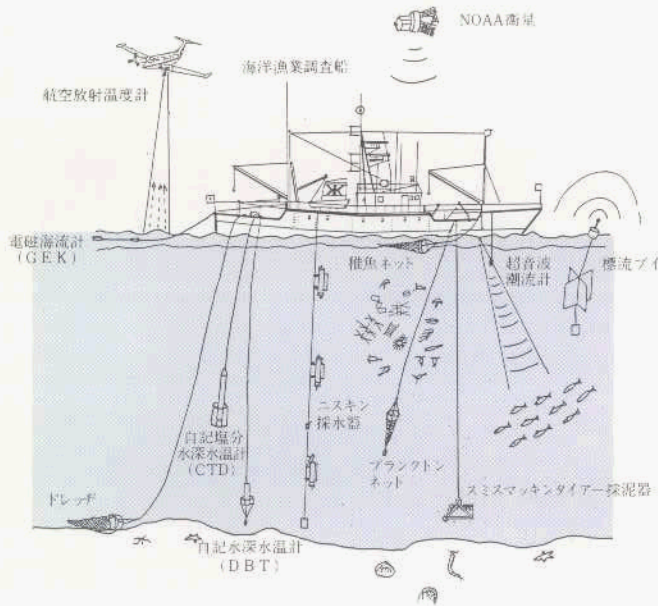
漁業対象種の生態学的特性の解明と、漁況予測、資源管理の研究を行っている。主な対象種はイワシ・アジ・サバ類・モジャコなどの浮魚類、タイ類・ニギス・アオメエソなど底びき網漁業対象の底魚類、経営上重要なイカ類・エビ類である。研究対象水域は主要浮魚類の再生産の場(産卵場)であり、カツオ・マグロなどの高度回遊魚の来遊水域である。これらの調査研究はわが国太平洋岸水域の水産資源の動向を知る上に重要な役割を果たしている。マイワシの産卵状況についての、最近の調査結果から、日本周辺で最も大きな産卵場とみられている。



マイワシ卵の分布(昭和60年2月)、現在日本周辺のなかで最も大きな産卵場となっている。

海洋部

薩南から四国沿岸域における海域は、イワシ・アジ・サバ類などの主要な再生産海域であり、この海域の黒潮流路の変動はそれら浮魚類の資源変動や漁場形成に大きな影響を与

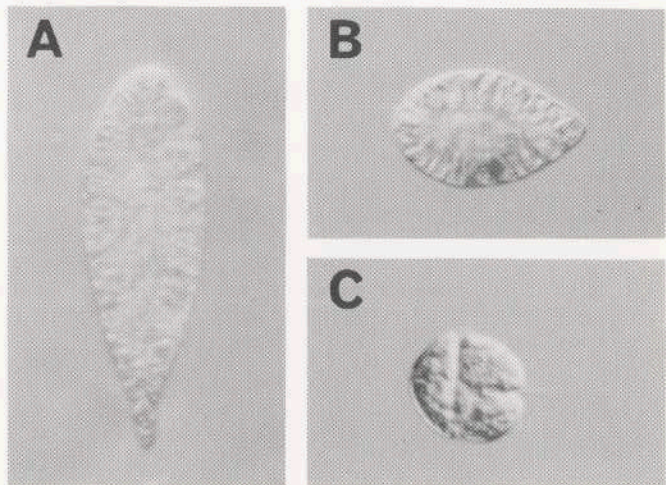


えている。このために、黒潮及びその周辺海域の海洋構造の把握、その変動機構の解明を主要課題とし、黒潮流路の変動予測を行っている。また、この海域の生物生産力を把握するために、栄養塩類、植物・動物プランクトン、ベントスの分布や現存量、種個体群生態を明らかにし、それらと主要浮魚類の資源変動、環境収容力、環境保全との関連について研究している。その他、人工衛星による海況情報の収集も新たな課題として取り組んでいる。

赤潮部

養殖業、漁業に大きな被害を及ぼす赤潮は特定種のプランクトンの異常発生によって起る。その機構を明らかにし、被害を最小限に防止するための赤潮発生子知手法の開発研究は各方面から期待されている。

また、埋立て等の進行は漁獲操業や有用生物の生産に悪影響を及ぼすので、地域都市開発と生物生産との調和が図れるよう、生態・環境の調査研究を基に総合評価して漁場の保全対策と生産増大を図る必要がある。そのため、将来の沿岸・浅海域における開発評価基準の策定に向けて先導的基礎研究を行っている。

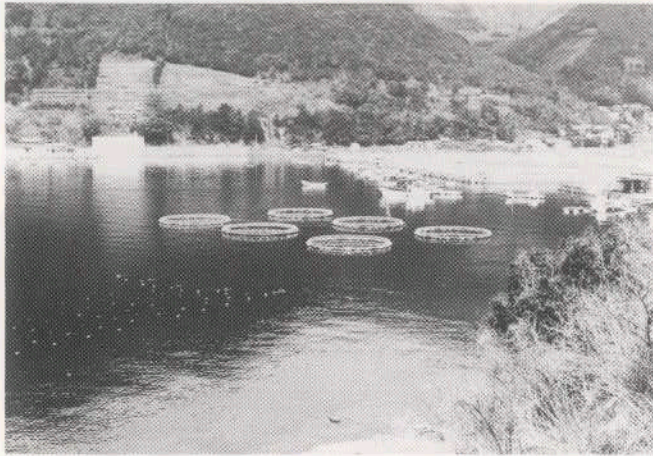


漁業被害を与える代表的な赤潮生物 (約530倍)

A: *Chattonella antiqua*, B: *Chattonella marina*,

C: *Gymnodinium nagasakiense*

増殖部



瀬戸内海を中心として沿岸域は、ハマチ養殖をはじめ魚介藻の増養殖に適した水域が多い。

有用魚介藻類の種苗生産及び育成過程における技術に関する研究とそれらの自然条件や養殖条件下における生態と生理に関する研究及び病気に関する研究などが主な基礎的研究である。この他に、マリンランディング計画、大規模砂泥域開発、ジーンバンク事業等の各種のプロジェクト研究に参加し協同研究を進めている。また、ブロック内研究活動として、魚類（種苗生産分科会・魚病分科会）、介類、藻

類の3研究会を組織し、研究推進に必要な情報の交換と新技術の習熟に必要な研修を行っている。

調査船

調査船は、しらふじ丸(広島庁舎)・こたか丸(高知庁舎)の2隻が配置され、各種の海上調査及び観測に従事している。

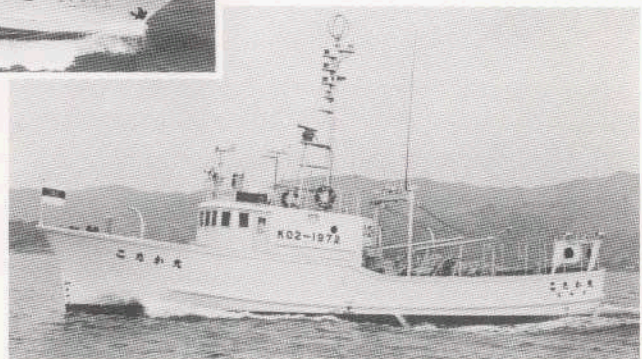


しらふじ丸(広島庁舎)

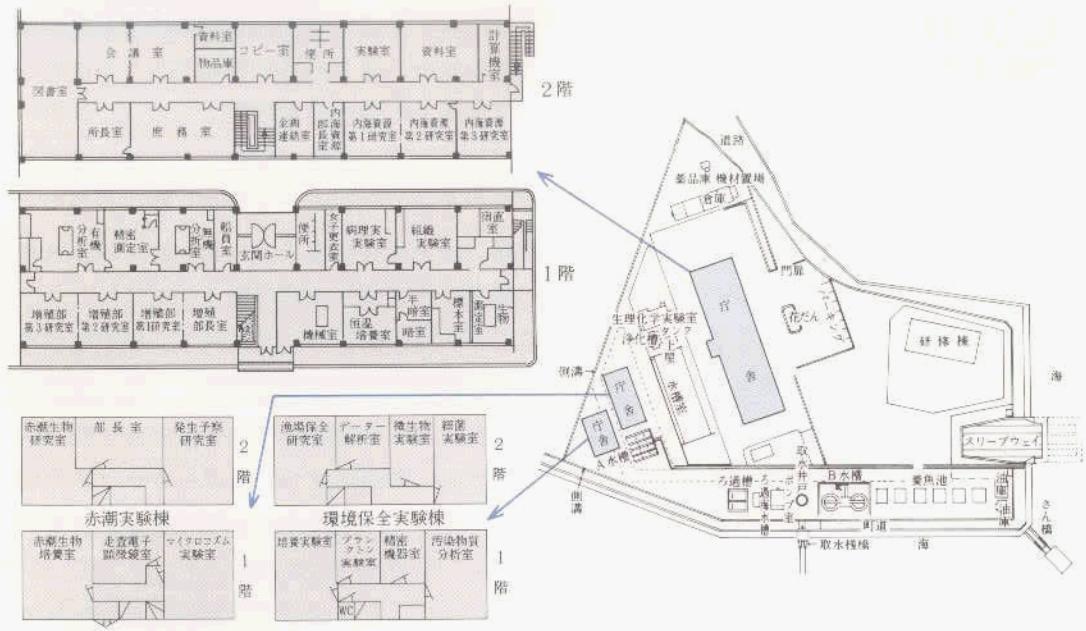
竣工 昭和58年3月
総トン数 138トン
全長 36.50m

こたか丸(高知庁舎)

竣工 昭和47年3月
総トン数 47.48トン
全長 18.47m

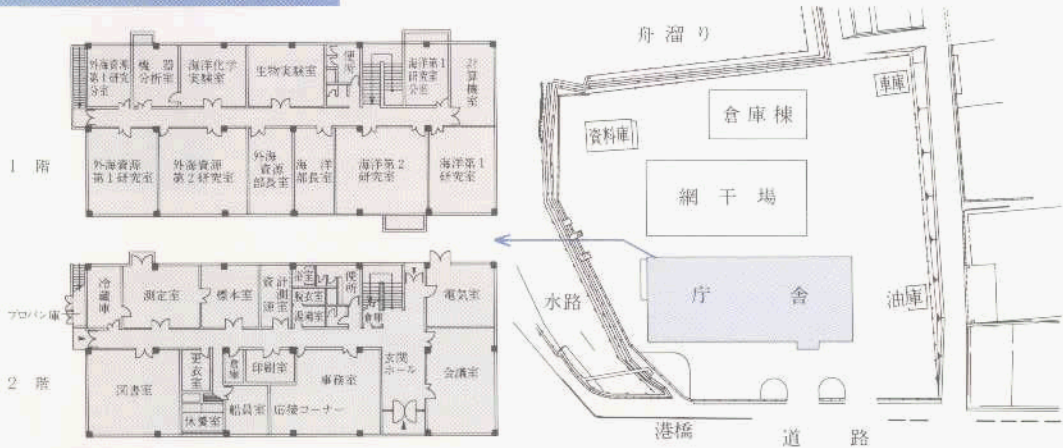


広島庁舎見取図



高知新庁舎見取図

昭和62年3月完成予定



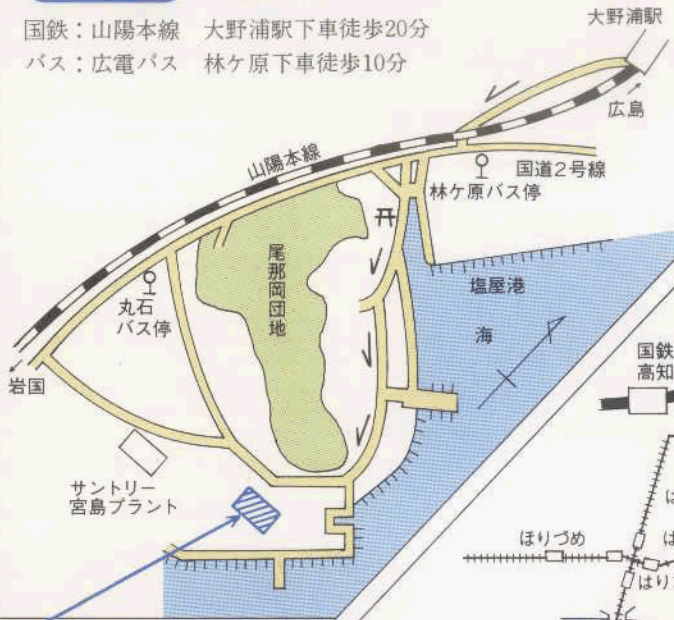
主な刊行物

- 南西海区水産研究所研究報告
- 南西水研ニュース
- 南西海区水産研究所調査報告
- 南西海区ブロック会議内海漁業研究会報告
- 南西海区ブロック魚礁研究会報告
- 太平洋・中部南部沖合底びき網漁業漁場別漁獲統計年報
- 南西外海の資源・海洋研究
- 南西海区ブロック海洋研究会報告
- 南西海区ブロック魚類増養殖研究情報
- 南西海区ブロック介類情報
- 南西海区ブロック会議藻類研究会誌

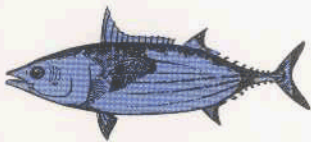
交通案内

広島庁舎

国鉄：山陽本線 大野浦駅下車徒歩20分
 バス：広電バス 林ヶ原下車徒歩10分



南西海区水産研究所広島庁舎



南西海区水産研究所高知庁舎



交通案内

高知庁舎

国 鉄：土讃本線 高知駅
 土佐電鉄：棧橋線岸壁通り

所在地

広島庁舎 〒739-04 広島県佐伯郡大野町丸石7782-9
 電 話 0829-55-0666(代)
 テレファックス 0829-54-1216

高知庁舎 〒780 高知県高知市棧橋通り6-1-21
 電 話 0888-32-5146(代)
 テレファックス 0888-31-3103